File 1

18 世代少年議会に注目

町議会と少年議会の意見交換会　議事録

令和 2 年 9 月 29 日（火）午後 6 時～8 時
会　場:生涯学習センター大会議室
参加者:町議会：12 人、少年議会：15 人
（記録：社会教育係）

１８期目を迎えた少年議会、今期は少年議会で長年温めてきたプロジェクトにフォーカスし町の力を借りながら、どうしたら実現できるか、微力ながら我々議会も加わり考えてみた

グループ A（空き家の活用～ユースセンターをつくろう～）

町議：土門、松永
少議：齋藤（愛）、佐藤（楓）、荒生

出た意見

・勉強しながら飲食できる・Wi-fi 完備
・アットホームなところ・クッションがほしい
・リラックス・各地域にあればいい
・放課後や休日の遊び場・マンガの持ち込み
・勉強＋遊び場もある
・施設をつくるにあたって運営・企画に携わる
・少年議会の発想を取り入れる場
・遊佐町で少年議会以外にも中高生の発想を取り入れる場・軽いイベント実施（お菓子作り等）
・台所食堂・料理を教えてもらう・中高生のやりたい気持ちの後押し
・町に空き家をユースセンターにすることを提案・棚や机を DIY・畑を作ってみる
・ユースセンターを拠点にする・ユースセンターまでに　移動手段→ボランティア
・中学生は集まりそうだが、高校生は難しそう・自力でやる・障がいのある子どもサポート
・目的を決めサポートチームをつくる（手話）・SDG s 対応
・クラウドファンディングを利用・制限があってもどこにもいけない子どももいる
・アスペルガー自閉症対応・注目を集める・車イスの方対応・やってよかったと思える
・集いの場にシャワー、仮眠室がほしい・テレビ・参考書の提供・地域との関わり
・駅近（楽しいとこあると言われたい）・掃除は平等に

まとめ

・若者が集まれるだけでなく、少年議会も全員協議会の拠点にできればいい。定期的なイベントを開催することで来てくれる人を増やしていきたい。
　ただ移動手段がない子どももいるのでボランティアのバスで送ってもらう等の考えが必要ではないか。どちらにせよ大人の理解が必要となってくる。

グループ B（少年議会専用の HP をつくろう）

町議：赤塚、那須
少議：後藤、安藤、土門

出た意見

・若者にも見てもらう・誰に見せる?（どんな世代）
・HP を見て小学生はどう思う？
・今までよりたくさんの人に見てもらえる
・小学生・中学生に気になって調べてもらう
・HP 見て小学生は理解できる？
・活動を見てもらえる・見る人はどんな人か
・HP をどうすれば見てもらえる？
・遊佐町の HP を見てる人はどのくらい？
・管理問題・なぜ許可がいるの？
・今は入りにくい遊佐町→少年議会・ワンクリックで
・HP に何をのせる？・遊佐町をプラスで知ってもらえる・字と写真のみ？動画、音声も
・議会に入ってない人が町外の人に説明する素材になる？・中高生の声のある HP
・各学校の活動の紹介（学校の中に委員会をつくる）・どんなことをのせる？
・知らせたい情報とは？・めざす像・地域の人との関りも・大人の意見も取り入れる
・HP のデザインは？・ドメインは？・あったら便利・SNS との違い？・一人ひとりの意見

まとめ

・少年議会専用の HP を作るにあたって大人だけではなく小中高生にも見てもらえるような内容のものを考えていく。

各学校に委員会を作ってもらうことで活動の紹介をすることができ、HP の質も上がってくるものだと考えられる。

この HP ができればバーチャルマーケットやハンガリーとの交流といったものも取り上げられ入口とすることができる。

グループ C（バーチャルマーケットで遊佐町を PR しよう）

町議：斎藤（弥）、菅原（和）、齋藤（武）
少議：佐藤（塁）、岩倉、齋藤（翼）

出た意見

・是非作ってみましょ！・自由な不自由！？
・普通じゃないバーチャルを・ネット通販
・バーチャルの発展（観光スポット）
・バーチャルだけど実際に手足を動かす
・ルームランナーで鳥海登山・ツーデーも
・遊佐の自然・湧き水買える・おやきも
・中高年からしたら現実離れ・世代間のギャップ
・他のメディアとの使い分け
・遊佐の好きな自然スポットでワープできる・最終目的は何？
・現実があってこその疑似
・バーチャルがあっての現実か、現実があってのバーチャルか？

まとめ

・バーチャルという自由すぎる内容で考えるのに少し苦労した。
　やってみたいこととしては、ルームランナーとバーチャルを利用しての疑似ツーデーマーチ体験とバーチャルの世界で遊佐町の上空を飛び、着地した観光地でいろんなものを買えたら（湧き水など）面白い。

グループ D（コロナ禍でのハンガリーとの交流）

町議：髙橋（冠）、佐藤（光）
少議：鈴木、齋藤（妃）、池田（涼）

出た意見

・行政の仕組み・言語と第２外国語・互いの文化
・ソルノク市との交流は？農業は？
・パリンカの摂取量は？・どんな活動？・文化の差異
・リモート・子育て・テーマしぼる
・ハンガリーで人気の特産品を売る
・向こうでの遊佐のものを売る・温泉ある？
・あいさつ（最低限度の）・今までの活動を掘り起こす・日本国内でハンガリーとの交流
・きっかけ、継続性・つながりのない人とは難しい？・ハンガリーとの交流を町民に伝える
・PR ビデオの共有（翻訳して）・クイズ大会（衣食住とか）・リモートクイズ・文通
・バーチャルマーケット・記録整理・ZOOM で国語教室

まとめ

・コロナ禍というキーワードから考えるとリモートを使った交流ができないかと考えた。現状況で海外に行くという考えは難しい・・・。お互いの文化をもっと知れるいい機会ではないか。
　また、日本にいるハンガリーの方との交流ができれば日本にいながらお互いを知ることもできる。

グループ E（少年議会のオリジナルキャラをつくろう）

町議：阿部、佐藤（俊）、本間
少議：池田（緩）、小川、髙橋（紗）

出た意見

・ペット、笑顔、行動力、主張
・固いイメージを可愛く・遊佐の特産品
・米～ちゃん一家にポメラニアン
・旗にメッセージ
・議員のこれまでの苦労を入れる
・キャラのストーリー性
・隣の町からおいだされ遊佐町の米～ちゃんに拾われる
・未来に向かって・固いじゃなくて芯ある
・町議会にもほしい・議会つながりで一緒に制作する
・米～ちゃんファミリーにペットを加える・ペットいいなぁ・・少年議会＝コナン・グッズ
・パンフレットに使う

まとめ

・少年議会のキャラクターを制作するにあたって**、少年議会の固いイメージ**をなくしたい。未来に向かって進んでいくイメージを持ってもらう。そのために親しみやすいキャラクター（ポメラニアン）を米～ちゃん一家に加える。しかし、ただ加えるだけでは違和感があるので隣の町からおいだされて遊佐町にきたところを米～ちゃんに助けられたという様なストーリー。